第Ⅰ部　夢や希望を育む「道徳の時間」

「死ぬ理由はない。だけど，生きる理由もない。」こう書置きを残して命を絶った中学生がいる。自分自身の明日や将来に生きていく価値を見出せなかった生徒の心中を思うと悲しい。「誰にも迷惑をかけるわけじゃない」と言って援助交際に走った少女がいる。彼女の描く未来への夢が見えないのも悲しい。心身ともに発達の著しい小学生，中学生の時期は，自己の確立に向けて自己の内面と周囲への探究心が高まり，理想に向けて自己の可能性を探ろうとする時期でもある。一方で，自分自身を他人との比較においてとらえたりするために，その至らなさに思い悩むことも少なくない。このような時期であればこそ，自尊感情や自己存在感をもてず，自分たちの未来に対して夢や希望を抱けないでいる児童生徒を放ってはおけない。

青少年の自己像　自己のタイプ（中学生）

(%)

	とても そう	わりと そう	あまり そうでない	ぜんぜん そうでない
人といるのが苦手	8.1	15.7	35.0	41.2
規則はきちんと守りたい	18.0	34.0	34.1	13.9
いやなことでも、できるだけ耐える	18.2	40.7	28.4	12.7
人を気づかう	21.4	44.4	26.4	7.8
いつまでも思い悩んでしまう	21.7	28.1	27.9	22.3
自分に自信が持てない	21.9	33.5	29.6	15.0
人の目が気になる	23.7	37.0	25.9	13.4
誰からも嫌われたくない	32.1	33.3	24.2	10.4
成績が気になる	38.3	29.9	17.3	14.5

モノグラフ・中学生の世界vol.59閉塞状況の生徒たち
平成10年　ベネッセコーポレーション

それでは，私たち教師は，児童生徒とどのように関わっていくべきなのだろうか。ここで，道徳の時間の可能性について考えてみたい。

道徳の時間においては，教師は，道徳的に完成した人格者として児童生徒に臨むのではなく，共によりよい人生を求めて努力する人間として指導に当たることが大切である。すなわち，「一人一人の生徒の中に，よりよい人生を求めて懸命に努力している姿を認め，その生徒の願いに，まっすぐ目を向けることから道徳教育は始まる（中学校学習指導要領解説道徳編ｐ.13）」のである。

教師は自らが歩んだ人生の足跡を振り返りながら児童生徒の小さなつまずきにも共感するとともに，夢や理想に向かって真摯に取り組む姿への感動を子どもたちと分け合うという基本姿勢をもつべきであろう。このような指導の姿勢を自ら求めて積極的に行うときに教師と児童生徒との間に深い相互理解と好ましい人間関係が醸成されるのである。

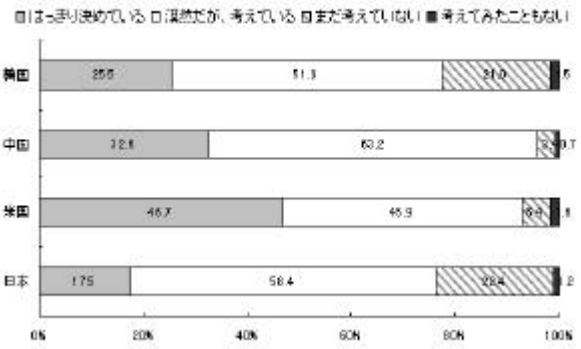
たとえば，中学校の内容項目を例に挙げてみよう。

・「より高い目標を目指し，希望と勇気をもって着実にやり抜く強い意志をもつ」
・「真理を愛し，真実を求め，理想の実現を目指して自己の人生を切り拓いていく」
・「自己を見つめ，自己の向上を図るとともに，個性を伸ばして充実した生き方を追求する」

・「人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて，人間として生きることに喜びを見出すように努める」

これらの内容項目については，自らの夢や希望に注目し，それを膨らますことのできる価値に出会う学習を仕組むことができるであろう。教師は，道徳の時間において，これらの価値との出会いを意図的，計画的に仕組むことで子どもたちとよりよい生き方について対話する機会を得ることができるのである。

将来の目標について（中学生）



２１世紀の夢に関する調査報告
平成 11 年　日本青少年研究所

しかしながら，年間指導計画に沿った授業に取り組んでいても，教師の強い願いと確かな授業意図がなければ，児童生徒と感動を共有できるような温かい授業が生まれることはない。年間 35 時間（小学校第１学年 34 時間）を通して，全ての授業で深まりのある感動的な授業が行われるわけではなく，中にはうまくいかなかったと反省の残る授業もあるだろう。ただ教師として一つ一つの授業を疎かにせず，児童生徒と正面から向き合う授業を仕組み続けていけば，お互いに心に響きあう授業が生まれるはずである。

子どもたちが，自分の将来に夢や希望を抱き，教師との温かい信頼関係の中で学ぶことができれば，問題行動等に走ることもなく，主体的な自己の生き方を見つけることができるのではないだろうか。私たちは，教師を志したときこのような授業を自分の教室に実現したいと誰もが思ったはずである。

今まさに，その実現に向けて「道徳の時間」を考えてみる必要がある。子どもたちの夢と希望を育むために。

（1）　主題名　友だちを信頼する　〔小学校高2－（3）〕

（2）　ねらい　互いに理解し合って，真の友情を育てていこうとする心情を育てる。

（3）　資料名　「手の中のダイヤモンド」（出典：明日をめざして6年　東京書籍）

資料の概要

詩の形式をとった資料である。前段は家族や友だちに親切にされた時に感じる優しい気持ち，中段は友だちに裏切られた時の憎しみについて語り，最後に，自分の心のあり方で本当にわかり合える友だちが見つかると語っている。資料を通して，信頼することが人間関係の基礎であり，友情を育むもとになることに気付かせていきたい。

（4）　学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　「友だち」という言葉から思い浮かぶことを発表する。	○「友だち」という言葉からどんなことが思い浮かびますか。 ・よく遊ぶ ・いっしょにいて楽しい ・何でも相談できる	○イメージマップという様式でワークシートに記入させる。
展開	2　資料を読んで心に強く残ったところを書き写す。 3　心に残ったところについて話し合う。 4　「友だち」について思うことを書く。	○心に強く残ったところはどこですか。 ・人をにくんだりすることで，自分までいじめてはいけないね ・人から気に入られようとする生き方をする必要はないんだ ・ダイヤモンドは君の手の中にある ○「人をにくんだりすることで，自分までいじめてはいけないね」のところで，どんなことを思いましたか。 ・人をにくむといやな気持ちになる ・人をにくんでいると暗い気持ちになる ◎「ダイヤモンドは君の手の中にある」とは，どんなことをいっているのでしょう。 ・わかり合える友だちは身近にいる ・自分にとって大切な友だちはすぐそばにいる ・信頼できる友だちはきっと見つかる ○「友だち」という言葉からどんなことが思い浮かびますか。 ・　自分のことを心配してくれる ・　はげましてくれる ・　大切な人 ・　信じることが大切	○心に強く残ったところをゆっくりとワークシートに書き写しながら，思いを深めさせる。発表の際には理由を述べさせる。 ○いくつかを取り上げて話し合う。 ○感じたことを自由に発表させ，友だちについて思っていることを自由に語り合えるようにする。 ○「ダイヤモンドは…」というところを書く児童が多いと予想される。 ○友情は，自分自身の心の持ち方にかかっていることに気付かせる。 ○友だちについて膨らんだ思いを赤ペンで囲んだり書き加えたりさせる。
終末	5　絵本の読み聞かせを聞く。	○絵本「ともだち」を読みます。今日学習したことを考えながら聞いてください。 ・友だちっていいもんだ ・自分にもこんな友だちがいる	○ゆっくりしみじみと読み聞かせる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

　６年生になると思春期にさしかかり，友だち関係も複雑になってくる。信頼と友情に裏付けされた人間関係を築くことは，この時期の児童が心穏やかな生活をおくるためには大切なことだと考える。詩の形式をとった資料から，児童それぞれの感覚で友だちについての思いを膨らませてほしい。

２　指導過程の工夫

　友だちについて思い浮かべることをイメージマップに記入することで，自分自身の友だちに対しての思いと向き合わせたいと考えた。導入時にイメージマップに書いた内容と，資料を読んで話し合った後で書き加えたイメージマップとを比べてみると，友だちについての思いが膨らんだり深まったりしていることがわかる。終末では，「ともだち」（出典：レイフ・クリスチャンソン岩崎書店）の絵本を読み聞かせ，信頼できる友だちがいることがどんなに素晴らしいことなのか，心に余韻を残しながら学習を終えた。

３　発問の工夫

　「心に強く残ったのはどこですか。」という発問においてはたっぷり時間をとり，理由付けをしながら発表させていった。その展開の中から「ダイヤモンドは君の手の中にあるとは，どんなことを言っているのでしょう」という主発問へ導いた。この発問について考えることを通して，信頼できる友だち関係を築くのは，自分自身の心の持ち方にかかっているということに気付かせたいと考えた。

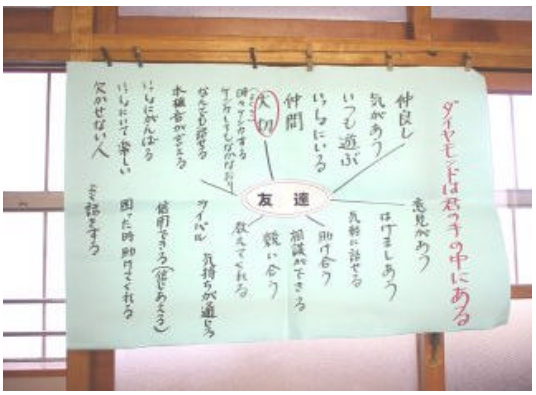
４　児童の反応

・人に無理に合わせるまでしんどい思いをするのは，本当の友だちではない。
・ダイヤモンドのように価値があり，自分にとって大切な人がそばにいるのはいいなと思った。
・ダイヤモンドのような友だちは，いつかきっと自分のそばに現れると思う。

　今まで漠然としか感じたことのなかった友だちの存在について，改めて深く考えることができたようだ。友だちとのきずなは自分自身がつくっていくものなのだと気付く児童もいた。

５　授業後のフォローアップ

　友だちに対する思いとして発表したことを書き留めたイメージマップは，授業後，教室に掲示している。日々学級の児童がこの掲示を見ながら，これからも友情を育んでいってほしいと願っている。



（大野西小学校）

（1）　主題名　自分らしさを生かす　〔小学校高学年　1－（6）〕

（2）　ねらい　自分の個性や長所を知り，これをよりよく伸ばそうとする意欲を高める。

（3）　資料名　ぼくにもこんな「よいところ」がある（出典：明日をひらく3　東京書籍 改作）

資料の概要

言われたことをきちんとやり遂げる「ぼく」は，逆に適当にやってしまう人を見ると落ち着かなくてがまんできない。しかし，ある時，クラスメートが「ぼく」のよいところをカードに書いてくれているのを見た。友だちが自分のことをこんなふうに見てくれていたんだとわかり，自分に自信をもつと同時に人のよいところを見ていこうという気持ちになった。

（4）　学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と児童の心の動き	留　意　点
導入	1　自分の長所だと思うところや自分の好きなところを発表し合う。	○自分のよいところや好きだと思うところを発表しよう。 ・人からおもしろいと言われるところ ・くよくよしないところ ・自分ではよくわからない	○自分としっかり向き合おうとしている友だちの発表をお互いにしっかり聞き合う。
展開	2　「ぼくにもこんな『よいところ』がある」の資料の前半を読んで話し合う。	○ぼくは，自分のことをどう思っているのだろう。 ・まじめな自分を好きになれない ・まじめな人間だと思われたくない ○ぼくは，なぜ「まじめな人間だと思われたくない」のだろう。 ・テレビで，「まじめ」は危険な性格だと言われているから ・まじめな子は，きらわれるのではないか	○ぼくが，自分のまじめさを，自分で納得することができないのはなぜなのかについて，考えさせる。
	3　「ぼくにもこんな『よいところ』がある」の資料の後半を読んで話し合う。	○クラスメートの書いたカードを読んで，ぼくはどんなことを思っただろう。 ・自分をよく見てくれて，うれしい ・自分にもたくさんいいところがあるんだ ・なんだか自信がでてきた ◎ぼくは，どうして落ち着いた気持ちになれたのだろう。 ・今のままの自分でいいんだと思えたから ・友だちにほめられて，自分に自信がもてたから ・ぼくのよさを見てくれている友だちがいることがわかったから	○まわりの人の見方や評価が，どれほど人の気持ちを支えるものなのかについて，気付かせたい。 ○落ち着いたぼくの気持ちに共感させたい。
終末	4　自分にあてて，手紙を書く。	○「自分へ」という題で，自分のことをどう思うか自分に向けて手紙を書いてみよう。	○自分の好きな面やきらいな面もふくめて，今の自分に向けて手紙を書かせる。 ○学級活動の時間等で，友だちのよいところ探しをすることを伝える。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

本資料は，自分の個性や長所を知り，これを伸ばしていこうとする意欲を高めることをねらいとしている。自分に自信がもてない，自分のよいところが言えない等，児童生徒の自己肯定感の低さが指摘されている。本資料を活用した授業を通して，自分自身をみつめ，よいところを自覚し，夢や希望をもって生活していくことができるようにしたい。

資料は中学生向けにつくられたものであるが小学生（高学年）でも内容理解はできると考えた。しかし，話の設定や語句等に難しいところがあったので一部改作して使用した。

２　指導過程の工夫

導入では，自分のよいところに目を向けさせ，自分のことについて考えていく構えを持たせた。なかなか書けない児童もいたが，無理に書かせることは控えるようにした。

資料は前半と後半に分けて読み進めた。前半では，主人公の自分のまじめさに揺れ動く気持ちをとらえることができるようにし，後半では，友だちの書いてくれたカードを読んだことにより，自分を肯定的にとらえ自信をもっていく気持ちを共感的にとらえていくようにした。

また，終末では，自分へ手紙を書かせることにより，自分を静かに見つめていくことができるよう考えた。

３　発問の工夫

主人公の気持ちの変化をとらえていけるように発問を構成した。中心発問「ぼくの気持ちの落ち着いた理由」を問うことにより，ぼくの気持ちをより共感的にとらえることができるようにした。

４　児童の反応

自分に向けて手紙を書くのが初めてということもあり難しいようであった。事前に作文学習等で経験させておくとよい。

（感想より）

・ぼくは，健二君の物事を最後までやりとげようとするところや計算が得意なところが好きです。でも逆にかっとなったらつい悪口を言ったりはずかしくて意見を発表しなかったりするところがきらいだ。そういうところを少しずつ直していくといいね。

５　授業後のフォローアップ

資料中にある「友だちのよいところ見つけ」を実際に行うと児童生徒の自己肯定感を高める上で非常に効果的である。自分の気付かなかったところを書いてくれてうれしくなったり，安心したり，自信を持てたりするからである。本実践では，授業の前と後に行う場合の２通り考えられる。事前に行うと，自分のよいところを書きやすくなる。また，資料中の「クラスメートの書いたカードを読んだ場面」での主人公の気持ちを共感的にとらえることができる。授業後に行うと，活動への期待感も高まり，より積極的に友だちのよいところを見つけたり，自分自身をみつめたりすることができると考える。

（伴東小学校）

（1）　主題名　よりよい生き方の追求〔中学校１－（４）　関連項目〔１－（５)〕

（2）　ねらい　よりよい生き方に対し理想を持ち，人間の真の幸福とは何かを求め，その実現をめざして，自己の人生を切り拓いていこうとする態度を育てる。

（3）　資料名　「クリームパン」（出典：文部省；中学校　真理や学ぶことを愛する心を育てる）

資料の概要

主人公の新一は定時制高校の４年生，父親は小規模ながら一代でパン屋を興し，丹精込めて作り出したその味は近所でも評判であった。しかし，一人息子の新一は，将来ロックバンドで有名になりたいという夢を持っていた。新一は家業を継ぐよううるさく言う父親に対して次第に反抗的な態度をとるようになり，最近はパン屋の修行にも身が入らない状態になっていく。そんなある日，常連客の１人が亡き祖父のためにとクリームパンを買いに来た。

（4）　学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　意　点
導入	1　「命」とそれを支える「食」について，考える。	○これまでの人生で何度の食事をしただろう？また，自分だったら最後の食事には何を選ぶだろう。 ・１年間に1000回は食べているかな？だとすると… ・やっぱり自分の一番好きな○○○を食べたいと思うかな	○教師自身の考えも紹介し，生徒の興味付けにつなげる。
展開	2　資料の前半を読んで，父親と新一の心情に対して共感的にとらえる。	○「バンドなどやめて家業のパン屋を継いでほしい」という父親の気持ちをどう思うか。 ・子どものことも考えているし，わかるような気もする ○「今はバンドに夢中だし，できれば有名になりたい」という新一の気持ちをどう思うか。 ・一度しかない人生だし，やりたいことを続けたいというのはわかる	○資料のような親子の会話に似た経験が，自分にもなかったか考えさせる。 また，自分はその時どう思ったか，など両者の立場にたたせ共感できるようにする。
	3　資料の後半を読んで，新一の心の変化について考える。	○なぜ（どういう思いから），長谷川さんはクリームパンを買いに来たのだろう。 ・祖父が生前こよなく愛した，この店の「クリームパン」を供えるため ◎「パン作りは地味でつまらない」と思っていた新一の気持ちを変化させたものは何だろう。 ・利益より誠意を貫いた，父親のパン作りにかけた情熱 ・地道でも頑張ったことは，必ず誰かがわかって（喜んで）くれる	○「冥土の土産」という語句を説明し，パンがおいしからという理由だけでないことに気付かせる。 ○新一の心の中で変化した「かっこよさ」「喜び」が以前とは大きく変わろうとしていることについて理解させる。
終末	4　将来の自分の職業観について展望をもつ。	○主人公新一が心に誓った「自分なりのパン」というのは，どんなパンだろう。 ・真心を込めて作ったパン ・いつかだれかに喜んで食べてもらえる「本物」のパン	○全ての「職」を通じて言えることであり，将来の生き方（進路）につながることを理解させる。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

主人公の新一は，当然のごとく敷かれた父親の後を継ぐ道と，多くの人に認められ注目されたいという自分自身の夢との狭間で揺れ動いていた。地味な仕事と派手な仕事という対照的な職業観に対して，仕事をする上だけでなく，生きていく上での真の「喜び」とは何なのかということを考えさせるよい題材であると思われる。

２　指導過程の工夫

本資料をもとに，将来に向けて利益や名誉以上の職業的価値観を身に付けていこうとする意欲につなげていきたい。漠然とした将来像は持っていても，なぜ，何のためという具体的なものを持っている者は少ない。ややもすれば，安定した仕事，かっこいい仕事，収入の多い仕事など，表面的なことにとらわれてしまいがちであるが，主人公の新一もそうした一人であった。その新一が，なぜ父親のような仕事も悪くないと思うようになったのかについて考えることを通して，すべての「職」に共通である，生きることの喜びや将来を展望した進路の実現につなげていけるよう工夫をした。

３　発問の工夫

主人公である新一の心を変化させる大きな力となった常連客の思いを中心に発問を構成した。資料中に記述されている「冥土のみやげ」というものを，どのように理解させるかが難しかった。これも職業観と同様「味」や「値段」という表面的なものではなく，新一の父親のパン作りにかける「情熱」や「誠意」に裏付けられたものであることを理解させることが必要であった。

４　生徒の反応

新一の父親の生き方に共感を持つ生徒が多かった。「かっこよさ」を表面だけでなく，内面からも見つめようとしていた。しかし，「本物」の持つかっこよさは理解しながらも，具体的に自分自身の将来の生き方にどうつなげていくかという点では，まだ十分とは言えず，これから自分を見つめ目標を定めていくための指導を継続する必要性を痛感した。

５　授業後のフォローアップ

本資料をもとにした生徒の感想は，学級通信などに載せ，生徒間だけでなく保護者へも紹介した。進路を控えた３年生を対象に実施したが，目前にせまっている中学校卒業後の進路のみならず，１０年先・２０年先を見据えた将来像を描くときの，職業観へとつなげていきたいと考える。

また，本題材は保護者参加型の授業としても実施できるのではないかと思われる。実際に生徒の中にも，将来，家業を継ぐであろうと考えている者もいる。そうした生徒の場合，多くは将来の職業を自らが決定したという意識が持てていないため，主人公の新一と同様，反発や迷いを抱きやすいのではないだろうか。親の思いや考え方についても実際に触れていくことを通して，生徒自身の思いと重ね合わせ，将来の仕事についても共感させていくことも可能になると思われる。

（清和中学校）

（1）主題名　「理想の実現」　〔中学校１－(４)〕　関連項目〔１－（２)・(５)〕
（2）ねらい　　理想の実現をめざして自分の人生を切り拓こうとする態度を養う。
（3）資料名　「風に立つライオン」(出典：さだまさし／暁教育出版・自分をのばす)

資料の概要
　舞台はケニア，３年前，日本に恋人を残してある医師がやってきました。その恋人から結婚を知らせる手紙が届きました。彼は自分の意志を貫いてここケニアの地に来たのですが，その手紙に少し驚いたかもしれません。彼は大自然の中で病気や負傷者と向かい合い，生活しています。彼は風に向かって立つライオンでありたいと願います。

（4）学習指導過程

	学　習　活　動	主な発問と生徒の心の動き	留　意　点
導入	1　教師の海外体験談を話す。	○教師が海外体験した時の話を聞く。	○生活習慣の違いなどを中心に話す。
	2　歌の背景を説明し歌を聴く。	○これから聴く歌は，ある青年医師の実話を元に作られたものです。 ○「風に立つライオン」を聴く。	○しつこくならない程度に説明する。
展開	3　主人公について説明を聞く。	○主人公の医師について話します。	○歌詞をより深く考えさせていく。
	4　主人公が感じたことについて考える。	○実際のアフリカでの生活は，主人公にとってはどうでしたか。 ・外国での生活や会話はやはりつらい ・医療設備が整ってなく大変だった ・大変だが後悔はない	○アフリカの写真を掲示する。 ○想像と現実のギャップに触れる。
	5　主人公が理想とする生き方について考える。	◎「風に向かって立つライオンでありたい」という言葉に込めた主人公が理想とするのはどんな生き方か。 ・百獣の王のごとく誇らしく生きる ・妥協せずに自分の信じる道を進む ・辛くとも困難に立ち向かっていく	○辛くても理想を追求することは大切だということに気付かせる。 ○主人公の気持ちに迫ってじっくり考え発表させる。
	6　自分の生き方と重ね合わせて考える。	○君たちはどのような草原に立って，どのような生き方をしますか。 ・甲子園をめざし毎晩素振りをする ・楽しい学校生活を送るために，毎朝あいさつをしている	○単なる夢の発表に終わらせず，自らの生き方と重ねて発表させる。
終末	7　歌を聴きながら感想を書く。	○もう一度歌を聴きながら，感想用紙に学習して感じたことを書こう。 ・難しくとも諦めず頑張っていく ・自分の夢を追いかける勇気を得た	○学級通信等で保護者にも知らせていく。

実践報告にみる留意事項

１　資料・題材について

理想の実現のためには多くの困難があるが，生徒は夢を持ちながらもそこへの距離を感じたりすぐに諦めたりする場合もある。主人公の生き方を通して，生徒自らが理想を追いかけることの素晴らしさや価値を見出し，さらに自らの生き方を考えていくためにはよい資料である。実話にもとづくだけに，生徒には説得力がある題材である。

事前学習としてＪＩＣＡメディカルセンターの貸出用ＶＴＲも活用できる。

２　指導過程の工夫

本資料は感動教材であり，この資料にどれだけ生徒が感動し共感できるかが大切であると考える。そこで，導入で歌を聴き終末でも再度聴くという過程をとることにより，より深く感じ，考える時間を確保した。

また，この主人公と交流のある歌手さだまさしがこれを題材に作曲したＣＤを聴くことで，アフリカの大自然をイメージしながら各生徒が深く考える雰囲気もつくることもできた。アフリカの写真掲示と共に生徒の感性に訴えながらの指導を意識した。

３　発問の工夫

「風に向かって立つライオンでありたい」という言葉に込めた主人公の理想の生き方を尋ねた中心発問に対して，生徒は言葉の意味するところを自分なりに解釈を加えて発表した。それを通して主人公の生き方に迫ることもできるが，言葉だけの解釈で終わらないように「君はそのような生き方をどう思うか」と重層的に発問を加えていった。それが次の自己の生き方と重ねていく発問の伏線となり，生徒の思考に流れをつくることができた。

４　生徒の反応

多くの生徒が「心を動かされた」といった感想だった。（生徒感想文より）

・恋人を残してまで自分のやりたいことをやり抜く決意は素晴らしいと思いました。また，それを辛くても幸せだと感じられる素晴らしさがあることも分かりました。
・ケニアでは言葉も通じなくて大変だったと思うが，そんな中でも医師としてケニアの人々に接しながら「辛くないと言えば嘘になるけど幸せです」と言えるこの人は，本当にライオンのような強い心を持っていると思いました。
・「風」は言葉の壁や病気と立ち向かう困難，「ライオン」は主人公の心のあり方，「向かって立つ」は夢の実現のために困難から逃げ出さずあえて辛いことの中へ自ら入って闘う姿勢だと思いました。

５　授業後のフォローアップ

短学活で感想を交流し，互いの考えや主人公が理想を実現させるためにどれだけ強く崇高な心を持っていたかを再考した。

また，自らの進路を切り拓くためにも自分の志を高く持ち，日々の努力を積み重ねていくこと（自主学習ノートなど）と関連させて話をしている。

（加茂中学校）